

ホーム名：グループホームあおやま					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』として理念を掲げたことで、職員本位にならずに必ず入居者の立場になってその方の想いを達成できる関わりに努めている。新入職の職員にも理念を意識して業務に励んでいただいている。	入居者の手による理念が各フロアエレベーター出入りに掲げられている。毎日の生活の中でやりたい事、入浴の時間、飲みたい物、自分の居場所等々、職員は入居者の希望を大切に、思いを尊重しながら支援している。	職員は、此方の都合で決定したり指示する事なく入居者の思いを尊重し、見守りながらの支援を心掛けている。今後も理念に副った支援の継続に努められたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣にイズミヤやお菓子商店があり、職員と共に買い物へ出かけていただいている。ただその度合いは高くなく、今後はさらに地域に関わって行く必要がある。近隣GHの方との交流会には積極的に参加している。	「LICはびきの」で行われる催しに参加したり、秋のだんじりを見に出掛けたりしている。事業所全体で行う「あおやま秋祭り」では、近隣に挨拶回りをし行い配慮している。「秋祭り」には、中学校の吹奏楽の演奏もある。	建物の立地環境がやや地域住民と隔たりがあるが、散歩や買い物での外出時には積極的に近隣の方々と触れ合う機会を持たれたい。その様な中から事業所、また認知症の理解が更に深まって行く事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との話し合いの中で、GHでの取り組みや認知症の方への関わり方法をお伝えする事はあるが、地域の方へとなると、貢献はまだまだ努力が必要である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度行っている会議での意見や情報・提案などを踏まえ、すぐに取り組めることは早急に、検討が必要な場合は上位会議で報告・相談して反映させて頂いている。	2か月に1度、ホームのリビングで開催されている。現状報告・行事実施報告・今後の予定・菜園活動報告等がなされている。また、ホームのブログ“グルホあおやまのほっこり街道”を見て感想を頂いている。家族へは順番に声掛けをしているが、出席が多いとは言えない。	会議のメンバー構成の上で、家族の出席ははずせない。会議の意義をよく説明する、また議題としては、ホームで取り組んでいる事や日頃の支援の様子、支援の成果や困っている事等々を具体的に話す等内容に工夫を凝らす、などで家族の出席に繋げられたい。この場が家族同士の交流の場のひとつとなると良いと思う。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の職員とも、介護保険上の事や加算に関する事、運営上に不明な点を相談させて頂くとすぐに回答を頂けていることから円滑な関係を構築させて頂いている。研修等の情報も積極的に頂き地域包括が実施された歯科の研修などに参加した。	市職員の運営推進会議への出席で、ホームの実情はよく伝わっている。相談事も易く、協力関係にある。	運営推進会議では質問や助言等を頂いている。今後も積極的に関わりを持ち、協力しながらホームの充実へと繋げられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはGH職員のみならず、法人職員も禁止意識は高い。フロア内エレベーターについては暗証番号制御されており、誰かと共に外出して頂くシステムになっている。正職員は全員「身体拘束、虐待について」の研修を受講した。	青山病院での「身体拘束と虐待について」のスキルアップ研修に参加した。テレビ等で問題の報道がなされた時は、会議の中で話題にし、意識を新たにしていく。エレベーターは暗証番号で制御されている。	日頃の支援を職員同士で振り返ることも忘れずに、今後も身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいかれたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の入り口には乱れた接遇があると考えている。言葉遣いから始まる多種の接遇面を職員皆が守る事が、ひいては虐待防止につながると思っている。虐待防止についての定期的な意識向上を行っていき職員間で注意しあう様にしている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>一名の入居者が後見人制度を利用されている。弁護士との連絡もこまめに行っており関係性は円滑である。ただ、後見人制度そのものには学習不足は否めないことから、さらなる知識向上が求められ今後の課題にも成る。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を踏まえた説明でご了承いただいている。料金や加算の変更についても即時入居者家族に連絡しご了解いただいている。疑問が出ればすぐにご連絡頂ける関係性も構築できている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記にあるように疑問・提案・苦情があればすぐに連絡頂ける関係性はある。事業所で回答が難しい場合は上位会議にて議題としてあげている。早急な対応で解決に繋げている。玄関先には意見箱を設置している。</p>	<p>家族の来訪時に近況報告を行っており、対面の中で意見や要望等を聞いている。駐車場の件で苦情が寄せられたが、早急に改善が図られた。また支援の要望から、“リハビリ体操”を毎日取り入れるようになった。</p>	<p>意見や要望、苦情等はホームの充実、支援の充実につながる。何でも言うて貰える関係作りを今後も大切にされたい。家族同士が話し合える場（家族会等）の設置も今後の取り組みとして期待する。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一回、フロア単位の会議とGH全体の会議を開催している。会議一週間前には職員個々に議案を提出してもらい、回答を集め、皆の意見が会議内ですぐに話し合える状況を作っている。正職員やパートの意見が同等に扱われるように上位職は心がけている。</p>	<p>フロア会議や全体会議の中で、意見や提案等を出し合う機会を持つ。支援の中での困り事や悩みを、解決に向け話し合ったりもしている。</p>	<p>自発的な意見や提案が出される環境作りを大切にして、更なる支援の充実へと繋がるよう期待する。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>春に人事考課を行っている。自己評価や直属上司による一次考課、管理上司による二次効果を行い、正当な評価が受けられるように取り組んでいる。考課表を示す事で職員自身も何をすべきことなのかを把握できる効果がある。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GHには学習委員を設置しており、自主研修・他事業所との合同研修を定期的に行っている。隣接している青山病院その他グループ事業で行われている参加可能な研修にも進んで足を運んでいる。今年度正職員は喀痰吸引の研修を受講している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣GHとのつながりを持つために『グループホームの集い』に参加している。一ヶ月に一度は管理者・計画作成担当者の集まりがあり、入居者・職員の交流の月もあり、それに参加している。職員同志で食事を兼ねて意見交換の場にも参加する職員に偏りが無いよう心掛けている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントはもとより、家族にも協力して頂き、その方の想いを教えるような用紙を用意している。 職員は入居者ごとの担当者を決めており、その方の想いが聞きだせるための馴染みの関係が築けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時では家族の状況・不安・要望を必ず聞き取っている。入居直後は特に家族への情報提供は欠かさない。上記にある入居者ごとの担当者が月に一度『あおやま便り』という手書きのお手紙を写真を添えてお渡ししている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には生活歴を聞き、その方の今ある状況を受け止め、その方に合った支援を提供するよう心掛けている。直後は絶えず家族と情報交換を行い、ケアの見直しや展開を相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・掃除などの家事については積極的に協力して頂いている。自立支援の観点でもあるが、「共に力を合わせて暮らしている」ということを入居者にもメッセージとして表したいための取り組みである。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問は多い。毎日昼食の介助に来て下さる方や、大きな行事には多数出席して下さるなど協力して頂いている事は多い。家族との繋がりをいつまでも持っていただけのように関わっており、家族もそれに応えて下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にお住まいの方が多くことから、友人の面会も多い。誕生日に昔懐かしい店に食事に出かけるなどのレクリエーションを行っている。 シルバー対象の旅行会社を利用して日帰りでのお出かけされる方もおられる。	家族と馴染みの美容院へ通う方がおられる。出掛ける事が好きだった方は、「シニアトラベル」を利用して四天王寺や歌舞伎を観に行くなど毎月外出されている。初詣には毎年誉田八幡宮に詣でている。	図書館を利用し、本を借りている方もおられる。今後も入居者それぞれの過去を大切にしたい。好きだった事や続けてきた事、思い出の場所への訪問など、継続の支援に努められたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	GH自体の建物が広くない事も功を奏してか、入居者は一応にしてリビングに出て来られる。中には言い合いになり職員が仲裁に入る事もあるが、にぎやかにも楽しくお過ごしいただけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に退居された方であっても、法人として、またGH職員として関わっていることは少なくない。病院が運営母体であることもあり医療面や、老健・デイ・小規模等の事業もグループ内にある事でいつまでも関係性を保持できている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』とあることから、ケアマネジメントはもとより職員全員が入居者本位のケアを前提に行動している。	部屋に行って話を聞く、横に座って話を聞く、1対1での散歩など、コミュニケーションを大切にされた対応を行っている。居室担当者を決めている。	入居者との意思疎通が大切となる。口に出せない思いも汲み取れるよう、更に研鑽を積んでいかれたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントは生活歴や嗜好を教えるような用紙も用意している。直接の情報収集は当然行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ごとの担当者を設置しており、その担当者が会議にてその方の心身状況の変化が見られれば発表し、全員が把握できる状況を作っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人の面会が多く、プランに反映できるように会話の中でのニーズを逃さないように心がけている。月に一回行うフロア単位の会議にて入居者のプラン見直しの会議を設けている。チームでのサポートを行うためにもほぼ全員からの情報発信をうながしている。	出来る事、出来ない事を明確にして、統一した介護ができるように努めている。本人の希望を盛り込み、家族の声、職員の意見も入れ計画を立てている。会議には本人の出席もある。「ケア記録」表下段には各人の「ケアプラン実施内容」が書かれており、短期目標の達成に向けて職員が意識して取り組むしくみが出来ている。	入居者が明るく楽しい毎日が送れるように、短期目標も具体的な楽しく取り組める内容を盛り込んで欲しいと思う。“ドールセラピー”を取り入れた方もおられる。経過記録もしっかり残されたい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をきめ細かく記載するとともに、情報メモという支援記録と気づきが記載できる書類を通じて職員間の情報共有を図っている。それに基づくモニタリングを計画作成担当者は実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHの建物の一階部分が通所リハとなっていることから、通所リハのPTに相談できる環境であり、そのPTもフロアに来てその対象者を直接に見たうえでの動作訓練を職員にできる環境である。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用については関わりは弱い。近隣のイズミヤへ買い物には行くが、その他の近隣施設を利用できているとは言い難く、課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に関わっておられた馴染みにかかりつけ医に引き続き診てもらっている入居者は数名おられる。訪問診療を利用している方もおられ、定期的な健康管理が出来ている。	診療情報が共有できるように記録で確認、家族にも情報を伝えきめ細かい支援が続けられている。心療内科医の往診、歯科の定期診療等かかりつけの薬局とも相談しやすい関係がある。	ホームが生活の場であることを大切に、一人ひとりの病気を把握し生活での変化を、観察し予防に繋がる情報提供に役立てられたい。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一回、隣接協力病院の看護職員が入居者全員の病状把握・相談・指導に来設している。訪問診療に同席する事も多く、医療との連携は円滑である。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療法人が運営するGHである事から隣接の病院との連携は円滑である。医師・看護師のみならず、病院内の地域連携室からの情報は個人情報に留意しながらも行われ、入退院についてもスムーズに対応させて頂いている。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に入居者及び家族に対して、当グループホームにおける指針の内容を説明した上で、入居者の重度化時及び急変時には重度化対応について話し合っている。また、GHでの生活継続が困難と思われる場合においても適切な施設への転居を提案させて頂くなど、入居者及びご家族の意向を踏まえながら話し合っている。</p>	<p>これまで医療行為が必要になれば協力医療機関に依頼、看取りを見守ってきた。</p>	<p>高齢の入居者が慣れ親しんだ環境の中で最期をどのように過ごしたいのか、自己決定の極みとして思いに応えられる支援を検討されたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接の病院内研修においても、看護師・病院ワーカーが参加するような急変時対応研修があり、GH職員はそれにも可能な限り参加してホーム内での勉強会を行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応マニュアルを職員は周知していると共に、消防訓練も定期的実施している。運営推進会議を通じて近隣の方が参加・協力して頂けるような訓練にしている。</p>	<p>入居者を含む訓練が実施され記録も残されている。備蓄品は関連機関に保管され職員に周知している。</p>	<p>災害等に対し、特に夜勤対応を具体的に想定したり、職員の異動時に自主訓練を行うなど、日常的に周知できるよう計画されたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては職員に、介護する上での根本的な姿勢を教育している。日々の中でも声掛け・プライバシーの保護を十分注意したケアを実践するよう努めている。又スキルアップ研修にも参加している。	入居者に対する声かけ言葉遣いに特に注意している。居室への入室時の声掛け、衣類の整理等は共同で行うなど、馴れ合いにならぬようにしている。	居室での生活時間はプライバシーそのもの。鍵をかけている入居者もいるとのこと。今後も適切な配慮ができる支援に期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物の選択、衣服や野菜にかけるドレッシングの決定など、自己選択・自己決定できる環境では、必ず自分の意思を聞き、想いが反映できる生活づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に沿ったケアを皆が実践することと、だれが主人公なのか、を絶えず意識する事で入居者本位のケアが実践できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマで過ごす、ということがないように入居者に無理なく声掛けし、ホーム内であっても人と会える装いで過ごしていただいている。出掛ける時などに化粧などして頂けるようなサポートを行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては開設以来、職員が意識して入居者と関わっている。それにより入居者も炊事場に立つことがステータスになっている。炊事仕事の取り合いで入居者間で諍いになる事があったので、当番制で行って頂いている。	訪問時も昼食を準備をする入居者の慣れた手つきがあった。月1回の外出、誕生会等行事メニューも提供されている。入居者の状態に合わせた食事工夫されている。職員も一緒に食事をしながら声掛けをしている。	入居者の残食はほとんどないという。職員の手で作られた食事が「美味しかった」と食べていただける日が続くよう願う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事については、委託業者がメニュー作成と食材配達を行っている。その為、栄養管理については問題がない。個人的な食事への留意については本人・家族と共に話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては研修を通じて知識・技術の向上に努めている。また、訪問歯科の医師・歯科衛生士から教をいただくこともあり、それを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方については排泄チェック表を作成し、その方に応じたケアを提供するようにしている。出来る限りいつまでも布パンツを使用し、トイレで排泄できるように職員全員が尽力している。	見守り、声掛けの必要な人を共有しながら支援している。トイレは整理され、清潔に管理され入居者が利用しやすい状態にある。	言葉での把握が難しくても行動から組み取ることができる環境作りは重要である。今後も活かされたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事形態の検討、医師・看護師への相談・受診、家族への相談などあらゆる視点から予防に努めている。夜間帯トイレ誘導時にも水分補給を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間を決めず、その方に聞きながら、気分の良い時に入浴を楽しんでいただいている。ただ、体調変化のリスクがある為、対応できる職員の手が多い9時から17時頃の入浴にして頂いており、夜間入浴は実施していない。	浴室も着脱室も普通の家庭の雰囲気がある。入居者別のシャンプー等が立体的に整理され、床面が確保されている。週2回一日3名あとは希望時に支援している。	入浴を嫌がる人への対応経験も共有できるようになり、入浴がより心身をリラックスする支援として免疫アップに繋いでほしい。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けず、自然と自身から床について頂けるように心がけている。昼寝についてはあまり寝過ぎにならないよう30分～1時間程度で声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のしおりを確認して皆の薬についての理解を深めている。服用しづらい方には入れ物を用意するなど工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別プランには役割を位置付けており、「一緒に生活を作り上げている」ことを実感して頂けるよう、菜園活動や食事作り・清掃など共同生活の中での役割を持っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その方の想いに添えるような外出などの援助を行っている。家族の協力も得ながら、外出・外泊も行っている。 H26秋より一部の方が月一回のペースでシルバー旅行会社を利用し外出できている。	外食や花見、定例の計画から日常的には図書館、喫茶店、買い物、事業所周辺での散歩等可能な限り調整しながらの支援がある。	高齢化に伴い積極的な希望が少なくなる中で外出は社会への関わりが実感できる最大の支援ともいえる。外気に触れ近隣の方との挨拶等今後も続けられたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGH内に個人での金銭持ち込みは禁止させて頂き、しかし外出時の買い物・飲食や外食については前もって立て替えなどで対応し、買い物が楽しめる状況にはするように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話取り次ぎ要望は少なく、掛かってくれば取り次ぐ程度。友人からの手紙が届く方もおられる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が大きく、駐車場を挟んで幹線道路に面していることから日当たりが良く、木々の色付きを見て頂いたり風を感じて頂ける。季節の移り変わりが分かる環境である。ホーム内は清潔を保つようにして、居心地が良い空間作りを行うように心がけている。観葉植物や熱帯魚の水槽を設置し入居者の癒しになっている。	「今日のご飯は何かな」を感じさせる雰囲気の中でフロアで過ごす入居者の姿がある。4カ所のテーブルでゆったりとしたスペースである。職員の顔写真、勤務者が貼られている。温度・湿度調整加湿器が置かれている。	フロアで過ごす時間が多い入居者にとって自分の意思で行動できることをサポートする支援を願う。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード自体が狭いことから、人同士が関われる環境ではあるが、一人になれる場所は居室のみである。もう少し小グループで関われるセミパブリックな空間があればなお良かった。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、タンスなどの家具も今まで本人が使用していた馴染みの物を置いて頂き、その場所を自分の居場所だと感じて頂くように、また、使いやすいうように自由にレイアウトして頂いている。食事の時は本人用の茶碗や箸・コップを使用して頂いている。	ベッド以外は入居者の物がそれぞれ持ち込まれている。家族の思いが伝わることで尊厳が保たれている様子がある。全居室には職員が作成した写真がファイルされ入所時からの入居者の変化を伝えるものになっている。	入居者にとって居室での生活の中心はベッド上になる。こまめな清掃を入居者と共同作業で習慣とされたい。

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり。</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内は基本的にすべて自由な空間である。新聞や雑誌を置き、パズルやドリルがある。居室には自分の趣味や好きな事に通じる物を置いて頂く事で、自分らしさ失わないようにして頂いている。</p>		
----	---	--	--	--

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない